

<研究主題>

自分の思いや考えをもち、生き生きと表現する児童の育成

～児童主体の言語活動の具体化と充実を通して（国語科）～

<主題設定の理由>

(1) 社会的背景

変化の激しい「知識基盤社会」の時代と言われる今日、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。また、PISA調査などの結果から、児童の学力については、以下の課題が明らかになった。

- ① 思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題の解決力
- ② 読解力で成績分布の分散が拡大し、その背景となる家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣の確立が不十分
- ③ 自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下

このため、教育基本法や、学校教育法の改正が行われ、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、学校教育においてはこれらを調和的にはぐくむことが必要である旨が法律上規定された。そして、学習指導要領においては、それらの学力の基盤として、各教科等の指導に当たり言語活動を充実することが求められている。

(2) 学校教育目標

本校は、未来に生きる子どもたちが強い意思と行動力を備え、心身ともに健康でたくましい子に育ってほしいと言う願いから次のような教育目標を設定し、その具現化に努めている。

学校教育目標	夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成	
	あかるく（徳）	明るい心とやさしい心をもった子を育てる
	つよく（体）	強いからだをもったねばり強い子を育てる
	かしこく（知）	自分で考え判断し表現する賢い子を育てる
	なかよく（コミュニケーション）	友達など他の人と仲よく関わる子を育てる

(3) 学校の実態

本校は開校7年目を迎え、学級数32の大規模校である。学力・学習状況調査の結果を見ると、一般的に基礎学力の定着が図られている。しかし、個々の児童を見ると、個人差があり、生活経験の少ない児童も見られる。また、教職員数も増えてきたため、全学級で共通の指導を行うことができるよう、手立てや取組を明確にし日々の実践を重視した研究を進める必要がある。そこで、平成24・25年度には「コミュニケーション力の育成」を研究領域として国語科を中心にさいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、確かな授業づくりを進めてきた。その結果、授業が大きく変わり、子どもたちの学習に対する姿勢も大きく変わった。

(4) 研究主題

前掲の社会的背景や学校教育目標等を踏まえ、学校教育目標の具現化また、これまでの研究成果をより一層確実に定着をさせるために、平成26・27年度では、「コミュニケーション力の育成」を研究領域として国語科を中心にさいたま市教育委員会の研究委嘱を継続し研究を行っている。本校としてはコミュニケーション活動を進める土台として、学習過程の重点化、言語活動の充実、系統性の重視、読書活動の重視を挙げている。また、自立した学び手としての児童の育成、自己表現を行う表現主体・考えを伝え合い交流する児童の育成を目指し上記の研究主題・副題を設定した。